

# 世宗の知によるハングル創製

## 漢字・漢文の枠から脱却した「革命」



**のみ・ひでき**  
1953年生まれ。東京教育大学中退、東京外国語大学修士課程修了。96-97年ソウル大学校韓国文化研究所特別研究員。前東京外国語大学大学院教授。現国際教養大学客員教授。05年大韓民国文化功労章受章。03年大韓民国文化功労章受章。著書『韓国語の多文化』他、著書多数。

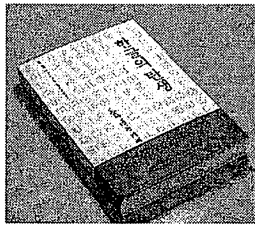


世宗大王の像(ソウル)

あった。つまり古典中国語を韓国漢字音で読む漢文である。〈話されたこと〉は韓国語であったのに、それが書かれることはなく、漢字漢文だけが書かれたことばとして存在した。そうした二重の言語構造の中に人々は生きていた。存在論の根底をなすというべき

正祖が臣下に与えた漢文の手紙には、突然ハングルで書かれた擬態語が現れる。漢字漢文で書けなかったありとあらゆるものを、ハングルは豊くのである。当時の支配階級の思想である朱子学さえ、ハングルでも書かれるに至る。世界を律する〈知〉の全てのありようがこつして根底から変革されたのであった。

よって「善が」「橋が」「端が」と異なった意味を実現する。15世紀の韓国語にも似たような高低アクセントがあった。こうしたアクセントまで、今日はい用いられなくなった。このように任組みで、かたちとして表そうとしたのであった。ことばの意味の区別に関与するあらゆる要素をへかちにするという思想。これはもつ現代言語学のものである。ではどうしてこつした思想が可能だったのだ



「ハングルの誕生」韓国語版

韓国ではハングルの日を記念して、さまざまなイベントが開催中だ。ソウル景福宮・修政殿では、ハングルの創製と変遷の過程や文字としてハングルの利点を紹介した「文字は生きていく」を開催中(9日までは、ハングルを使ったデ

サイン公募展を8日から14日まで開催。光化門広場では、「ハングルサロン(愛)」と題したハングル文化体験コーナーを10日まで設置。ほかにも、詩人の高銀さんの作品に曲を付けて演奏する「ハングルを歌う」が8日に世宗文化会館で開催。また国立民俗博物館では11日、韓国文化をテーマにした外国人スピーチ大会を開く。

10月9日は「ハングルの日」だ。韓国固有の文字・ハングルを世宗大王が創製・公布したことを記念する日で、韓国では記念行事が行われる。野間秀樹氏(国際教養大学客員教授・前東京外国語大学大学院教授)の著書『ハングルの誕生』(音おん)から文字を創る』(平凡社新書)は、日本の読書人・知識人の間に知的興奮を呼び起している。同書の韓国語版が出版社トルベガからこのほど刊行された。野間氏に寄稿をお願いした。

ハングルの決定的な意義は、〈知〉のありかたを根底から変革したことであり、15世紀のハングル創製以前、〈書かれたことば〉の全ては基本的に漢字漢文で

## 「知の歓び」を韓日で共有

寄稿 野間 秀樹(国際教養大学客員教授)

「端が」と異なった意味を実現する。

必要とした。韓国語のすべては、どうしても書か



訓民正音

したハングルのシステムは、一つの音節を音節の頭の子音、母音、音節末の子音、そしてアクセントという4つの要素に解析して、それぞれに明確な形を与えた。日本語東京方言の「はし」が「は」との音節を高くあるいは低く発音するかという高低アクセントに

る。ハングルを生み出すことができたのは、何と云っても世宗の天才性が第一に大きい。世宗の思想性の高さは、韓半島の歴史の中でも最高峰に位置づけられる〈知〉であるだろう。

「ハングルの誕生」韓国語版発行人「ハングルの誕生」韓国語版訳者、金珍娥・明治学院大学准教授は、訳者解説「ハングルの誕生の誕生」の中で、「〈知〉という広い視野から見てこそ、私たちはこのハングル」という文字とハングルの中で生きてきた、著者が言う、類的存在として人間として、巨大な知の歓びを共にしようのである。日本語圏の多くの読者たちの心をつらしたものは、まさにこつした普遍性であった」と評している。